

都留市50年のあゆみ



都留文科大学
—市民と共に歩み続けて—

『都留文科大学創立五十年記念誌』が刊行されました。50年の歴史がつづられた記念誌は、大学図書館・市立図書館・各地域コミュニティセンターでご覧になれます。



今回は、都留文科大学のあゆみをご紹介します。
本市は、都留文科大学を核に、全国各地から多くの学生が集う学問や文化・芸術が融合した知的風土を醸しだすまちとして発展してきました。
昭和28年4月、都留文科大学の前身である山梨県臨時教員養成所が、当時の谷村高等学校(旧谷村高等女学校)の校舎内に設置されました。
臨時教員養成所は、2年間で71名の卒業生を輩出した後、昭和30年4月に、都留市立都留短期大学に改編され、更に、昭和35年4月、4年制の都留文科大学に昇格し、文学部が置かれ、学部には初等教育学科、国文学科と聴講生課程が設置されました。
その後、昭和38年に英文学科、昭和62年に社会学科、平成5年には比較文化学科がそれぞれ設置され、現在、文学部5学科にそれぞれ大学院を持ち、名実ともに、全国に誇れる公立大学として、充実、発展してきました。

●都留文科大学のあゆみ

昭和28年4月	山梨県臨時教員養成所設立(1年制、定員50名)
昭和30年4月	都留短期大学開校(初等教育科定員50名、商経科定員50名)
昭和35年4月	都留文科大学開校 文学部(初等教育学科定員50名、国文学科定員30名)
昭和38年4月	英文学科設置(定員50名)
昭和41年8月	新校舎完成。現在の市役所地内から上谷1666番地の現在地に移転。
昭和56年5月	本部棟完成
昭和62年4月	社会学科増設(定員60名)
平成3年4月	文学専攻課程設置(教育専攻定員10名、国文学専攻5名、英文学専攻5名)
平成5年4月	比較文化学科設置(定員80名)
平成7年3月	文学専攻科国文学専攻廃止
4月	大学院文学研究科開設(国文学専攻定員5名、社会学地域社会研究専攻定員5名)、日本語教員養成課程開設
平成10年3月	中国湖南師範大学と交換留学協定締結
12月	文学専攻科英文学専攻廃止
平成10年3月	大学院文学研究科英語英米文学専攻増設(定員5名)
4月	アメリカ合衆国カリフォルニア大学と学術交流協定締結
10月	大学院文学研究科比較文化専攻増設(定員5名)
平成12年4月	大学院文学研究科臨床教育実践専攻増設(定員5名)
平成15年4月	地域交流センター新設
平成16年2月	新図書館完成

50年に想う

合併当時の思い出や50年を振り返っての感想、今後の都留市に期待することなど10人の方々にそれぞれの思いを語っていただきました。

父が東桂の役場に務めていました。当時合併の話は父から聞き、何かさみしい気持ちになったことを覚えています。今では合併してよかったですと感じています。



亀沢布二子さん

時代は変わりましたが、子ども達には団結力と思いやりをもって欲しいと思います。今また合併の話を聞きますが、大きい市になって、よりよい街づくりをしてもらいたいです。

当時高校2年だった私は「東桂村が市になる」と聞き、うれしく感じたことを記憶しています。勤めていた頃は『出身が城下町都留市』という



三枝秀雄さん

皆から一目おかれていました。そんな都留市に誇りをもっています。これからも自然を大切に、気持ちがいい、きれいな住みよい街であって欲しいと願っています。今、自治会では、ごみ問題に真剣に取り組んでいます。

私が小形山にいた娘時代に、合併問題で、田野倉地区が問題になっていたようでしたが、谷村を中心に立派な市に発展



小俣和江さん

して、本当によかったと思っています。時代が変わり、男女共同参画時代で少子問題や高齢化対応など難しい問題がいっぱいありますが、皆で知恵と力を出し合って、温かい住みよいふるさとづくりをしていきたいと思っています。

当時は、むしろ旗を立て『合併反対』をしていた人がいたことを覚えています。市になったことで街が整備され、住みよくなるように思います。今また合併の話を聞きますが、大きい市になって、よりよい街づくりをしてもらいたいです。



三枝静香さん

今までの50年・

当時私は23才で郵便局の給料は1万円だったことを覚えています。都留市は人情も厚く住み良い街だと思います。都留市ボランティア連絡会会長をしておりますが、今年市制50周年を祝ってボランティアまつりを合同で開催し、お祝いしたいと準備を進めております。大勢の方のご参加をお願いします。



小笠原昭夫さん

27才だった私は市になることになんて大きな希望も持っていません。市になって年々便利な世の中になり、特に盛里地区はリアアが走ったことで視野が広がりました。老人クラブの会長をしています。これからは色々な所で男女共同参画が活発になり、女性の会長なども増え、老人が活躍できる場、楽しめる場をもっと増やしてもらいたいと思います。



小俣啓作さん

・これからの50年

当時中学生だった私には夢がありました。でも『まだ進学する人は少なく、まずは働いて家のことを考える』そんな時代でしたので、市になることに対して実感はありませんでした。昔は大家族で秩序がある家庭が多かったと思います。市には、各種委員会などで協議された内容などがもっと市民に浸透していくよう期待しています。



小林かつ江さん

合併当時、やはり田野倉地区の分村問題を思い出します。合併してからも1町4村が、地区の輪を取り除いた街づくりができるのか不安で



川上長明さん

した。しかし、皆が新しい市を作りたいという気持ちが、今日の都留市の発展になっていると思います。今後は、活力あるまちづくり、誇りをもてる街を目指し、新しい世代へ引き継いでいきたいと思っています。

むしろ旗を立て『合併反対』を叫んでいた人達に対して、分村反対の大会に友だちと参加した覚えがあります。あの頃はもう戦後ではない



上野房子さん

と言われていましたが、まだまだ物質的に貧しかったが、人と人の心の付き合いがありました。今の時代は人の痛みが分からない人が多いように感じます。高齢化社会の今、生涯学習・スポーツの振興を積極的に進めてほしいと思います。

合併当時は中学校に入学した時だったので、市になることに対してあまり実感はありませんでした。



坂田紀男さん

振り返って感じることは、子ども達が外で遊ばなくなり、親が怒らなくなってきたように思います。子ども達には人の痛みがわかる子どもに育てて欲しいと思っています。

各地域の昔の町名は大事にして欲しいです。